

平成23年度

学校経営計画
(スクールのマネジメントプラン)

平成23年4月7日

京都府立嵯峨野高等学校

(様式1)

平成23年度 府立嵯峨野高等学校 学校経営計画（スクールマネジメントプラン）（ 計画段階 ・ 実施段階 ）

学校経営方針（中期経営目標）	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
<p>校是である「和敬」・「自彊」・「飛翔」を柱に質の高い教育活動を進めるとともに「学校力」を向上させ、将来国際社会のさまざまな分野でリーダーとして活躍できる人材の育成を目指す。そのため、</p> <p>◇ 高いレベルで自己実現を図ろうとする意欲を持ち、自ら学ぶ姿勢と高みに挑むチャレンジ精神を備えた強い生徒の育成を図る。</p> <p>◇ 系統・類型の特色を最大限生かしつつ、学校として調和のとれた教育を推進し、豊かな人間性の育成と学力の伸長を図る。</p> <p>◇ 生徒・教職員が一体となり、広く社会の教育力の有効な活用も図りながら Sagano Dynamics を推進する学校づくりを進める。</p> <p>Sagano Dynamics: the way in which things or people behave and react to each other</p>	<p>① 「自宅学習チェックカード」を書かせることと週末課題等において学習習慣の確立を図った。今年度も継続した指導を行うが、個に応じた課題提示を行うよう改善する必要がある。</p> <p>② 遅刻防止への指導や清掃の指導に効果があり、規律ある学校生活を落ち着いた学習環境のもとで送らせることができた。ただし、挨拶や言葉遣いの面では課題があるので、それらの指導とマナーや公共心の育成を図るよう指導に努める。</p> <p>③ 学習指導や進路指導において高い希望をもち最後まで努力するよう指導に努めた。その結果、難関大学や医学部への進学者数が増加した。今年度も1年次より進学意欲の向上を図るよう指導に努める。</p> <p>④ 学力向上フロンティア校支援事業の研究発表会を行い、その成果と課題について校内での共通理解を図った。ラボや論理表現を始めとした特色ある教育活動を推進し、思考力や課題解決能力の充実を図っているが、まだ不十分なところもある。今年度は特に生徒のプレゼンテーション能力の向上に一層努める。</p>	<p>① 自己管理ができ、マナーや環境美化に対する意識等、品性と公共の精神を備えた、自立した社会人としての基盤を培う。</p> <p>② 学校生活全般に対する生徒の主体的な参画を促し、リーダーシップを育てるとともに、自律的な集団づくりを進める。</p> <p>③ 学びに対する主体的な姿勢を引き出しながら、確かな知識と思考力・表現力等のバランスのとれた質の高い学力を育成する。</p> <p>④ 高い志とチャレンジ精神を持って将来を展望し、主体的に進路目標を設定してその実現を図ろうとする態度と力を養う。</p> <p>⑤ 5年間の学力向上フロンティア校指定事業の成果を踏まえ、特色ある教育活動の創造に一層努める。</p>

評価領域	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題
魅力ある学校づくり	嵯峨野高校の将来構想を見据え、新教育課程の編成を行う。	選ばれる学校づくり、魅力ある学校づくりに向けて系統・類型の在り方を検討し、新教育課程を編成する。 ----- 新学習指導要領の趣旨を踏まえるとともに、入試動向に関する情報も収集して新教育課程を編成する。		
	5年間の学力向上フロンティア校指定事業の成果を踏まえ、魅力と特色ある教育活動の創造に一層努める。	高大連携や高企連携をレクチャーシリーズや専門科目と関連させて一層の充実を図る。 ----- アカデミックラボ・サイエンスラボを充実させ、探究型の学習活動を推進する。 ----- 1年次のサマーセミナー（フィールドワーク・英語集中合宿）、2年次のサイエンス・フィールドワークの充実を図り、生徒の主体的に学ぶ姿勢を育む。		
組織とその運営	学校評価システムを計画的・機能的に運用し、教育の質の確実な向上を図る。	生徒による授業評価アンケートの実施と教職員による学校経営計画中間評価、最終評価を計画的に行い、速やかに結果を公表する。 ----- 学校評議員や保護者などによる外部評価を充実させ学校改革に生かす。		
	施設設備の維持管理及び危機管理態勢の整備により安心安全な学校づくりを進める。	日頃から危機管理意識を高め防災・防犯に努めるとともに、学校施設設備等の点検を常時行う。		
	学校経営方針を実現するため、一致した指導と連携した組織運営を行う。	学校経営計画の内容を十分認識し、一致した指導が行えるよう分掌間の連携を密にする。 ----- 各分掌は各種会議の情報の伝達・共有を正確に行い、学校として組織立った教育活動が展開できるように努める。		
	個人情報保護の観点も踏まえ、セキュリティを確保しつつ効果的な校務管理体制を推進する。	個人情報保護及びデータ管理について、内規に基づき厳重に管理する体制を確立する。 ----- 府立学校共通の新校務システムの円滑な運用に向け体制を整備するとともに、情報管理を徹底する。 ----- 進路関連文書の発行に係る点検と、生徒情報の管理を厳重に行う。		

評価領域	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題
学習と進路指導	計画的な学習習慣を確立させるとともに、生徒の学びに対する意欲的・主体的な姿勢を涵養する。	ステップアップセミナーを中心とした初期指導の徹底により、高校での学習法を身につけさせる。 自宅学習チェックカードを定期的に書かせるとともに、課題のある生徒にはアドバイス等を行い、個別指導に役立てる。 各教科が連携して週末等の課題を調整し、効率的な課題提示を行う。 自学自習する力をつけるため、自習室の積極的・有効な利用を促す。 第2学年において、自主・自律型の学習合宿を実施する。		
	基礎基本の徹底により確かな知識を定着させるとともに、思考力、表現力を伸ばし、質の高い学力を育成する。	予習復習の習慣づけの徹底を図る。特に低学年の段階から模擬テストの復習を徹底させる。 学力に課題のある生徒には継続して補充を行い、確かな知識の定着を図る。 論理的思考力を伸ばし、問題を解決しようとする能力や態度を育成するよう授業改善に努める。 専門科目やラボ・フィールドワークが、自ら学び研究していく力とプレゼンテーション能力を育成できるように計画し実施する。		
	高い志とチャレンジ精神を持って将来を展望し、主体的な進路目標の設定とその実現のために努力する力を養う。	教科担当者会議・進路検討会を充実させ、生徒の高い目標設定に向けて全教員が一致した指導にあたる。 生徒の進路希望に対応した補習を精選して開講し、継続受講の徹底により、生徒個々の学力伸長を補完する。 生徒がより高い目標を設定できるよう難関大学対応の補習や模試を充実させる。		
生徒指導と特別活動	基本的な生活習慣を確立させて自己管理能力を身につけさせるとともに、マナーに対する意識や公共心を育成する。	自ら進んで挨拶を行い、目上の人に対する正しい言葉遣いができるよう指導する。 場にふさわしい服装や身だしなみを自らとれるよう啓発する。 遅刻指導を継続し、時間を守る態度を育成する。 常習化する生徒には個別の指導を行う。		

評価領域	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題
生徒指導と特別活動(つづき)	学校生活全般に対する生徒の主体的な参画を促し、リーダーシップを育てるとともに、自主性・自律性のある集団づくりを進める。	文化祭や球技大会に向けての取り組みを通じて、リーダーシップや自主的・自律的集団作りを意識させ、集団としてのレベルを一段高いものに成長させる。 上級生が下級生を導き、手本となれる集団を育てる。 生徒会と委員会の活動を通じて、生徒自身が文化祭や体育祭を企画・運営していく力を育てる。		
	支援を要する生徒への対応の充実を図るとともに、人権教育の視点を踏まえ自他を尊重する態度や実践力を培う。	教育相談会議を機能的に運営し、共通認識をする。 支援を要する生徒に対し、特別支援教育コーディネーターを中心として担任・教科担当・分掌間で連携を図るとともに、特別支援学校とも連携をとって支援に当たる。 人権教育推進会議を中心として生徒の実態に応じた人権学習を実施する。 いじめに関するアンケートを実施し、早期に発見し解決に向けた指導を行う。		
健康安全と環境美化	心身ともに健全な成長を図れるよう、健康・安全に対する意識を高める。	生徒の実態に応じた対応を迅速に行い、生徒が健全な成長を図れるよう保護者とも連携する。 薬物乱用防止教室と普通救命講習を実施し、健康と安全に対する意識を高める。 交通ルールの遵守を徹底し、自転車運転のマナーの向上と安全に対する意識を高める。		
	環境美化活動と保全活動により、エコを意識したより良い学習環境づくりと施設設備の維持管理に努める。	清掃活動において、各自責任を持って役割を果たさせ、公共の場を汚さない気持ちを育てる。 大掃除ごとに重点項目を示し、清掃活動を実施する。また、担当区域の監督・指導に当たり美化の保全に努める。 教室未使用時の消灯とゴミの減量・分別の徹底を図る。各施設設備の使用に際しては、常に整理整頓を心がけさせる。 環境問題について、教科学習や分掌の取組と連携を図るとともに、講演を通して意識の向上に努める。		

評価領域	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題
メディアリテラシー	情報の選別能力と発信能力を向上させるとともに、情報モラルの育成に努める。	ホームルームにおける進路学習等を通して、インターネット利用についてのマナーやルールの指導を行う。 ネット監視業務に基づき、不適切な内容を含むHP・blogに対する指導を継続的に行う。		
	学習・情報センターとしての学校図書館機能を充実する。	ライブラリーニュースの発刊等を通して図書館の積極的利用を勧め、読書習慣の形成に努める。 生徒が自発的・主体的に学習に取り組むとともに、各教科と連携して言語活動の充実が図れるよう図書資料の整備・充実に努める。 小論文、面接指導に関して、進路指導部と図書部及び各教科が連携して生徒の指導に当たる。		
家庭・地域社会との連携と広報活動	普通科及び京都こすもす科に関する広報活動を充実し、学ぶ意欲をもった生徒の応募につなげる。	進路実績のみならず、将来を見据えて進路選択できる能力を育成する本校の進路指導の取組を広く伝えるよう努める。 ホームページなどを利用して、本校の説明会の案内やとこのは祭等折々の学校行事の紹介に努める。 ラボやフィールドワーク、レクチャーシリーズ等を積極的にホームページで紹介し、本校の魅力をアピールする。		
	家庭や地域、関係機関との連携を図り、開かれた学校づくりの取組を行う。	PTAお知らせメールを活用して週ごとにきめ細かい情報の発信に努める。 「嵯峨野だより」を本校の情報発信の重要な柱と位置づけ、広報誌として役立てる。 出前授業や中学校の説明会など、地域の中学校との連携を密にする。		
教職員の資質向上	指導力向上のため、研修の充実に努める。	新学習指導要領の趣旨を取り入れた教科指導の在り方・授業研究を行い、授業改善に繋げる。 各教科で作成されたシラバスをとりまとめ、指導力の向上に役立てる。 分掌・教科研修を実施し、課題となっている事項について教職員の共通理解を促す。 外部研修や研究発表会などを紹介し、より多くの参加を促すことで指導力の向上を図る。		